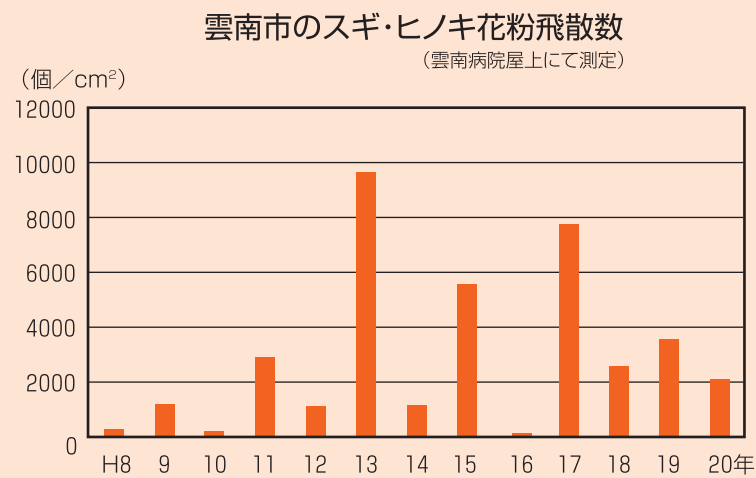


さて、当院では以前より島根大学医学部など他の医療機関と共同で、毎年飛散するスギ・ヒノキ花粉の測定を行い、その情報を新聞、テレビなどを通じ花粉飛散予報として皆様にお伝えしています。また、花粉飛散数などを各医療機関などに直接連絡し日々の診療に役立てていただいています。島根県各地でのスギ・ヒノキ花粉飛散数をグラフで見てください。御覧のように雲南市は県内でも花粉飛散数の多い地域の一つです。風向きによる飛散数の違いについても検討しましたが、北西の風の日には海側から斐伊川、赤川に沿って風が吹くため比較的花粉が少ないことがわかりました。まわりの環境、地形、風向きなどにも関係が深いようです。また、晴れて気温の高い日、風の強い日、前日が雨だった日の翌日は花粉が多いこともわかってきました。もう一つのグラフは病院の屋上で測定した雲南市のスギ・ヒノキ花粉飛散数の年次変化です。1年おきに多い年と少ない年がありますが、これは樹木の結実が1年おきに多い年、少ない年を繰り返す隔年結実現象からといわれています。また花粉数は前年の夏の気象条件によっても左右され、夏が暑く雨が少なかった年の翌年が花粉の多い年ということがわかりました。地球温暖化も無関係ではないのです。グラフや今年の夏の気象条件から来年の花粉は多いことが予測されますので注意が必要です。



アレルギー性鼻炎、花粉症の治療

アレルギー性鼻炎の治療としてはまずくしゃみ、鼻水、鼻づまりに対する内服薬の投与が基本です。いろいろな種類があり、その患者さんの症状に合わせ選択します。くしゃみ、鼻水に効果の高い抗ヒスタミン薬、鼻づまりに有効な抗ロイコトリエン薬などがあります。それ以外にも点鼻などの外用薬、アレルギー体質を改善する目的の減感作療法、外来でも比較的簡単にできる外科的治療としてレーザー、あるいは高周波などによる粘膜の焼灼術などもあります。

スギ・ヒノキ花粉症患者さんに対する特別な治療法としては、花粉の飛び始める少し前から治療をはじめていただく初期療法という治療法があります。毎年症状の出る患者さんには花粉飛散開始の2週間前程度を目安に受診していただき予防的な治療を開始します。いざ花粉が飛び始めてもあらかじめ治療を行っていた患者さんは比較的軽い症状で抑えられ喜んでいただいています。まだ少し早いです。年が変わればそろそろ花粉症の話題も出てくるでしょう。毎年花粉症でお困りの方は1月下旬から2月の初めを目安に治療を開始していただくとその効果に驚かれるかもしれません。



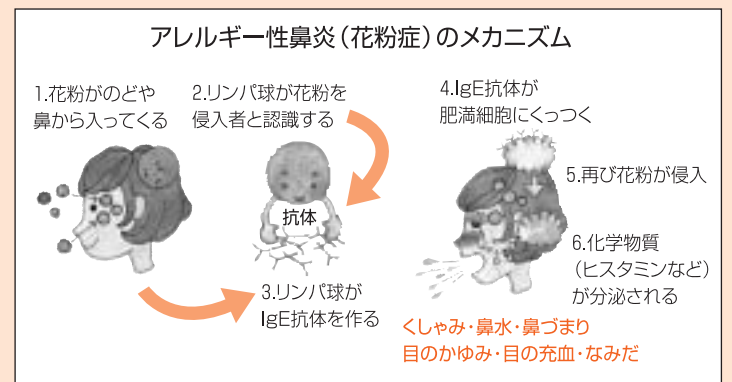
アレルギー性鼻炎と花粉症

診療局次長 佐野 啓介
(耳鼻咽喉科部長)



アレルギー性鼻炎ってどんな病気?

発作的に連発するくしゃみ、鼻水、鼻づまりを3大症状とする病気です。鼻や口を通して入ってくる様々な物質に対して、それらを排除しようとする生体防御が過剰に反応した結果として生じます。原因となる物質(アレルゲン)としてはダニ、ほこり、スギ、ヒノキ、カモガヤ、ブタクサといったものが有名ですが、その他カビ、動物の毛、ゴキブリなどの昆虫の死骸なども原因となります。アレルギー性鼻炎の患者さんの体内にはアレルゲンに対して特異的に反応するIgE抗体が多く存在します。アレルゲンが体内に入ってきたときにその抗体が反応し、肥満細胞とアレルゲンをくっつける作用をするため、肥満細胞の中にあるヒスタミンなどの様々な化学伝達物質が放出されます。それらの反応により3大症状が出現するといわれています。診断としては、鼻腔内の所見を観察することでもおおよその診断がつかますが、鼻汁の中のアレルギー細胞を確認したり、採血によりIgE抗体を調べることで確実な診断が可能です。



花粉症とは?

ダニ、ほこりなどが原因で一年中症状のある通年性アレルギーに対し、花粉が原因で季節によって症状の出るものを花粉症といいます。イネ科、キク科などアレルギー性鼻炎を引き起こす様々な花粉がありますが、何といってもその代表はスギ・ヒノキ花粉です。毎年2月から5月にかけて猛威をふるい、20%近くの方々が何らかのアレルギー症状を呈することより国民病ともいわれています。戦後の荒れた山々に植林したスギが成長し多くの花粉を飛散させるためといわれています。また、最近の動物性たんぱく質の多い食生活により体質が変わってきたこともアレルギー症状を呈しやすい原因の一つと考えられていますし、さらに大気汚染や地球温暖化も無関係ではないようです。

島根県各地におけるスギ・ヒノキ花粉飛散数
(過去5年間の平均値)

